令和４年３月３１日作成

地域版地域ケア会議実施報告

令和３年度　世田谷　地域

地域版地域ケア会議の開催状況

地域ケア連絡会としての開催　１１　回

参加者（所属）：

■地域ケア連絡会（コア）：４回

参加者：あんしんすこやかセンター

テーマ：Ｂ会議の事例から地域課題を抽出する

■地域ケア連絡会：　５回

参加者：あんしんすこやかセンター、世田谷地域障害者相談支援センター（ぽーとせたがや）、社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、世田谷ボランティアセンター、地域振興課、保健福祉課、健康づくり課、生活支援課、子ども家庭支援課、介護予防・地域支援課

テーマ：個別課題から抽出された以下の地域課題について検討を行った

・成年後見制度、あんしん事業の理解を深める

・8050 世帯へのかかわりを考える(お互いの強みの理解、事例検討、ひきこもり相談窓口の理解等)

・コロナ禍の各関係部署における地域課題と課題に対する取組み

■地域版地域ケア会議：　２回

参加者：あんしんすこやかセンター、世田谷地域障害者相談支援センター（ぽーとせたがや）、社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、世田谷ボランティアセンター、地域振興課、まちづくりセンター、生活支援課、保健福祉課、健康づくり課、子ども家庭支援課、介護予防・地域支援課、居宅介護支援事業所（高齢・障害）

（１）三者（四者）連携会議との合同企画

テーマ：避難行動要支援者への取り組み、各地区の取組みの共有

（２）世田谷エリア自立支援協議会との合同企画(ZOOM 研修)

テーマ：「障害のある方が歳を重ねた時、今利用しているサービスはどうなるの？」

～障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行について学ぶ～

地域合同包括ケア会議としての開催　０回

抽出された地域課題　（※前年度から継続する地域課題を含む）

カテゴリー	テーマ
権利擁護	身寄りのない高齢者の金銭管理
内容：認知機能、判断力が低下している身寄りのない方について、在宅生活を続けるための金銭管理をどのようにしていくか。 高齢者自身が元気なうちから、介護保険サービスや成年後見制度を理解する必要があるが、現状では、そのための機会や場が少ない。	
８０５０問題	８０５０問題事例の事業者間の情報共有や行政との役割分担
内容：対象者が自立支援医療、障害福祉サービス、介護保険サービスなど併用している場合、各事業所間の情報共有が図りにくい。 医療や支援を必要としていない５０ケースへの見守り体制をどのように構築するか。	
８０５０問題	８０５０事例への支援
内容：未就労で家族以外の地域とのつながりがない５０の居場所および就労に向けての相談先が不足している。親亡き後のことを考えた予防的なアプローチは必要だが、実際は親子ともつながりにくい現状がある。	
認知症	認知症高齢者の見守り支援
内容：認知症高齢者の地域での見守り体制が十分でない。民生委員等の支援者のほかに、地域の支援者の発掘が必要である。 民間企業等と見守り協定を締結していても、円滑に活用されているのかが不明。 セキュリティが厳重な住居に住んでいる認知症高齢者に対してのアプローチが困難。	

地区・地域等による取組み	
地域課題	**取組み状況**
８０５０問題における支援者間の連携 家族の個別性の課題に加え、高齢と障害の制度の違い、障害側の社会資源やマンパワー不足、支援者相互の理解不足等、様々な課題がある。 連携の強化のためには、まずは支援者が各々の制度や支援アプローチの違いの相互理解が必要。また個別性に応じた 50 側への自立支援の方向性について検討の場が必要である。	・地域ケア連絡会において、２回に渡り、ぷらっとホーム世田谷、メルクマール、ぽーと世田谷、健康づくり課に、それぞれの業務と８０５０事例に対する強み弱みを報告してもらい、相互理解を深めた。 ・ぽーと世田谷が、各あんしんすこやかセンターを巡回し、情報共有等を行うことで、相互に連携しやすい関係づくりを行った ・世田谷エリア自立支援協議会との合同研修において『障害福祉から介護保険への移行』を実施し、各々の制度及び各機関の理解促進を図った
独居高齢者の見守り、権利擁護 身寄りのない独居高齢者の金銭管理や権利擁護などをどのように進めるかが課題。 成年後見制度を円滑に進めるための申し立て支援等の取り組みに加え、終活にむけた元気なうちからの理解促進、また若い世代（子の世代）に向けての成年後見制度の理解促進など、予防的なアプローチが必要。	・地域ケア連絡会において、成年後見制度の理解促進をテーマに、学びと成年後見センターとの関係づくりの場を設定した。成年後見センターに対しては、事前に地区の実情を伝えるとともに、地区支援のさらなる強化について依頼した。 ・これを受け、各あんしんすこやかセンターでは、成年後見センター職員を講師として、ケアマネ向けの勉強会を開催するなど、啓発・理解促進の取り組みを行っている。
担い手不足 高齢者の担い手が多く、若い世代に地域課題の理解促進や支えあい意識等の醸成を進めていく必要がある。 若い世代と高齢者の交流の機会も作りつつお互いがサポートしあえる地域づくりに向け、知恵を出し合う場づくりも進める必要がある。	・世田谷地域の各三者（四者）連携会議の取組みで、地域デビュー応援バックを配布し、担い手確保に向けたアプローチを継続中。 ・若い世代へのアプローチとして、若い世代との情報交換の場づくり等について、各三者（四者）連携会議の中で取り組みを検討している。

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）

・高齢者、認知症、障がい者等の地域の中の居場所づくり、地域内での役割の創出。
・８０５０　ひきこもりへの支援者の理解促進と家族を見立てる視点のスキルアップ。
・認知症高齢者への理解促進　徘徊等の地域での見守りについて。

令和４年４月２８日作成

地域版地域ケア会議実施報告

令和３年度　北沢　地域

地域版地域ケア会議の開催状況

地域ケア連絡会としての開催　８　回

参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、北沢地域障害者相談支援センター（ぽーときたざわ）、社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、健康づくり課、保健福祉課、介護予防・地域支援課、

地域合同包括ケア会議としての開催　３　回

参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、北沢地域障害者相談支援センター（ぽーときたざわ）、社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、北沢地域主任ケアマネジャー、保健福祉センター所長、地域振興課、まちづくりセンター、健康づくり課、保健福祉課、介護予防・地域支援課

テーマ：「北沢地域版地域ケア会議報告書」の「地区・地域課題シート」の１１項目から、「本人が家族・地域から孤立している」を課題とし、「孤立の予防へむけて」～予防（重度化予防）するための必要な支援体制をテーマとした。

抽出された地域課題　（※前年度から継続する地域課題を含む）

令和２年度、北沢地域では、設定した 12 の地域課題が抽象的で具体的な取組みにつなげることが困難だったことから、過去に開催した地区版地域ケア会議を振り返り、地区の取組みにつなげることを意図して、より具体的なレベルで地区・地域課題を抽出した。

（北沢地域版地域ケア会議報告書（p.15～22 参照）

本人の課題	１．本人が家族・地域から孤立している
	２．本人は身体・認知機能低下・精神症状等により生活を送ることが困難になる
家族の課題	３．家族が拒否や思い込み、経済困窮等があるので、本人への適切な支援が入らない
家族・支援者の課題	４．家族や支援者等は認知症や精神疾患等への理解不足がある
	５．家族や支援者は本人に必要な支援が入らないと負担が増す
支援者の課題	６．支援者が複数いると支援者同士の連携が困難になる
	７．支援者は、介入困難な状況が長期化すると、対応に困り疲弊する
	８．支援者（専門職）が適切な情報収集・アセスメントができず、対応に困難を感じる
地域の課題	９．地域はつながりのない本人の見守りが難しい
	10．地域には高齢者・障害・子ども等の複合的な支援が必要な世帯がある（例 8050 など）
	11．地域には柔軟なサービス提供の仕組みがない

これら 11 項目のもとに、より具体的に「主体」「原因」「結果」を明確に記述した小項目を設けている。また、新たな地域課題が抽出された場合、課題を追加し、「見える化」する。

地区・地域等による取組み	
地域課題	取組み状況
【普及啓発】 １．地区の要となる町会・ケアマネジャーへの介護予防事業のより効果的な周知 ２．コロナ禍での住民の方や支援者へのＰＲ活動の工夫 ３．６５歳を迎えた方への情報発信	「孤立」をテーマに、地域で不足している社会資源、仕組みについて取り組んだ。 ６月の拡大版地域ケア連絡会にて「孤立」の予防に向けて議論し、優先的に取り組みたいと思っているテーマについてアンケートを実施したところ、ネットワーク構築への取組みを希望する回答が多く得られた。 関係機関の連携が不十分なことで、問題が複雑化する事例では、地域から孤立している人に対して町会や自治会、民生委員が行う地域での見守りと、あんしんすこやかセンター等が行う個別の見守りの連携を深め、見守り活動を充実させていく必要があるのではないかなど、孤立を防ぐための地域での取組みの方向性について確認した。
【ネットワーク（支援の体制）】 １．認知機能や障害により判断力が低下した方の状態に応じた重層的な見守り・支援の体制 ２．世代を問わず、元々人との関わりが苦手な方への支援の体制 ３．喪失体験や男性介護者等同じ体験を分かち合い支えあう支援の体制	「みんなでつながろう！きたざわ」～地域の見守り体制を充実させていくために～をテーマとして、あんしんすこやかセンターや障害者相談支援センター（ぽーときたざわ）が、町会や自治会等と連携した事例報告会を実施した。 あんしんすこやかセンターや、ぽーときたざわ等の相談機関に安心して気軽に相談できる仕組みづくりや、課題を抱える個人・家族と地域の方々、相談機関や行政が自然につながることができる地域づくりに向け、地区の要となる町会・自治会の方々にも、地域ケア連絡会へ参加いただき、あんしんすこやかセンターやぽーときたざわの周知など、地域での情報共有・情報拡散をおこなった。

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）
・全区で課題の解決策を検討する際に個別課題の解決に有効的なものとなるよう、日頃から直接支援を担っている現場の職員、関係者の意見を取り入れながら、検討を進める体制づくりが必要である。 ・区の地域包括ケアシステムは、「誰もが」安心して暮らしていく地域社会をつくっていくものであるが、現在は高齢者が中心の取組みになっている。障害者、子ども、生活困窮者など、高齢者以外の分野を地域ケア連絡会でどのように取り上げるか、検討が必要である。 ・コロナ禍が継続する中で、対面開催にこだわらず、オンライン活用の環境整備とスキル向上を図る必要がある。

令和４年４月２５日作成

地域版地域ケア会議実施報告

令和３年度　　玉川　地域

地域版地域ケア会議の開催状況

地域ケア連絡会としての開催　　９　回

参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター（ぽーとたまがわ）、社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、健康づくり課、介護予防・地域支援課、保健福祉課

地域合同包括ケア会議としての開催　　２　回（当初予定回数３回）

参加者（所属）：①②ともに、あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター（ぽーとたまがわ）、社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、介護予防・地域支援課、生活支援課、子ども家庭支援課、保健福祉課

テーマ：

①「世田谷はなみずきの会」（ひきこもり地域家族会）との意見交換会

各地区の８０５０対応事例の共有と家族会の活動を理解し、支援者と当事者である家族会と交流を行うことで顔の見える関係を構築し、支援の連携強化を図った。

②「玉川警察署との意見交換会」

安否確認や虐待対応など連携が必要なケースも多くなっている。支援者、警察署の立場や役割について意見交換を行い、互いの役割を理解する機会とした。

③「玉川地域の医療と介護・福祉が繋がる会」（玉川地域三師会、あんしんすこやかセンターの共同企画）

令和４年２月に開催予定だったが、新型コロナ感染症拡大の影響により、開催を中止した。

抽出された地域課題　（※前年度から継続する地域課題を含む）

カテゴリー	テーマ
孤立	前期高齢者の男性独居の地域と関わりがなく孤立している
内容：新型コロナウイルス感染症拡大の影響により外出を控える高齢者が多く、地域とつながりのない特に７０歳代の男性高齢者の孤立死事案が頻発した。	
連携	８０５０ケースに対して早くからアウトリーチや課題整理の取組み
内容：精神疾患・ひきこもり・身体障害・８０５０などの家族がいることによって起こる家族問題が増加。問題も複雑化しており対応が難しい。	
権利擁護	特殊詐欺等の被害の増加。地域の関心や見守りに関する意識を広げる
内容：玉川地域において被害実態はかなり広がりを見せており、高額な被害も複数発生している。詐欺の手口や被害状況等、広報誌等を活用し注意喚起を行い、地域住民の関心を高める必要がある。	
認知症・見守り	独居の認知症高齢者の増加
内容：地域とつながっていない独居高齢者が多く、関わるタイミングによっては認知症が進行してしまう。認知症高齢者を地域とつなげ支援する仕組みが必要。	
災害支援	避難行動要支援者への支援
内容：多摩川洪水浸水想定区域における風水害の避難行動要支援者に対する支援について、具体的な支援方法と役割分担の整理と検討が必要。	

地区・地域等による取組み	
地域課題	**取組み状況**
前期高齢者の孤立 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で外出を控える高齢者が多く、地域とつながりがない７０歳代の男性高齢者の孤立死事案が頻発した。	＜地域＞ ・令和２年度に地域の共通課題として位置づけ取組みを開始した。 ・共通のチラシと質問票を使用し、「高齢者の社会的孤立を予防する」ことを目的に、各地区が訪問地区と人数の目標を設定し、「前期高齢者実態把握訪問」を実施した。
８０５０ 家族の中で起こっている問題を複雑化させないためにも、状況を早めに把握することが重要。多機関で連携し課題を整理し支援をひていくことが必要。	＜地区＞ ・誰でも自由に集える居場所を開設。(月１回) ・地域ケア会議で事例検討を行い課題の共有し連携を深めた。 ＜地域＞ ・ひきこもり地域家族会の「世田谷はなみず木の会」との交流会を開催。家族会の活動内容や家族の声を聴き、支援機関の連携の重要性を再確認した。
独居の認知症高齢者の増加 地域とつながっていない独居高齢者が多く、関わるタイミングによっては認知症が進行してしまう。認知症高齢者を地域とつなげ支援する仕組みが必要。	＜地区＞ ・当事者及び家族、町会役員、民生委員、介護保険事業者等が参加し「希望条例の懇話会」を開催。認知症の理解を深めた。 ・「はいかいＳＯＳ声掛け模擬訓練」を三者連携で開催した。 ・小、中学校の児童生徒を対象にアクション講座を開催。 ・認知症カフェの再開。
災害支援 多摩川洪水浸水想定区域における風水害の避難行動要支援者に対する支援について、具体的な支援方法と役割分担の整理と検討が必要。	＜地区・地域＞ ・等々力、上野毛、二子玉川地区の多職種連携の会において、避難行動要支援者支援の取組み状況を保健福祉課より説明し、多職種で課題やどのような取組みができるか等の意見交換を行った。

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）
・地域の共通課題「前期高齢者の孤立」の取組みは令和４年度も継続して実施する。昨年度の実施状況をまとめ、新たな地域課題の把握と地区活動に活かしていく。また、「地区活動の担い手の発掘」を意識し、高齢者の閉じこもり予防に取組んでいく。 ・避難行動要支援者支援については、継続的に各あんしんすこやかセンターと協働し、多職種で意見交換の場を持ち、取組みについて共有していく。 ・令和３年度に実施した地区版地域ケア会議の残された課題を整理し、令和５年度に向けて課題解決の取組みを検討していく。 ・独居の認知症高齢者が増え、問題も様々である。特に身寄りのいない高齢者の場合、成年後見の手続きに時間を要し、その間の支援が課題となる。病院の理解が得られず連携が取れない場合も少なくない。

令和４年４月２８日作成

地域版地域ケア会議実施報告

令和３年度　砧　地域

地域版地域ケア会議の開催状況

地域ケア連絡会としての開催　９　回

参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、砧地域障害者相談支援センター（ぽーときぬた）、社会福祉協議会、成年後見センター、ボランティアビューロー、健康づくり課、介護予防・地域支援課、保健福祉課

議題によっては、上記に加え、建築安全課、地域振興課、住宅管理課、介護予防・地域支援課認知症サポート担当も参加。

地域合同包括ケア会議としての開催　１　回

参加者（所属）：各地区あんしんすこやかセンター、主任ケアマネジャー、ケアマネジャー、医師、看護師、薬剤師、ＭＳＷ（医療ソーシャルワーカー）、サービス提供責任者、福祉用具プランナー、保健福祉課　総勢９０人

テーマ：医療と福祉の連携懇談会
「ＡＣＰについて　～事例をもとに多職種で考える～」

※ＡＣＰとは、人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合い、共有する取組みのこと。「人生会議」ともいわれる。

抽出された地域課題　（※前年度から継続する地域課題を含む）

カテゴリー	テーマ
連携・地域活動	認知症高齢者や親族のいない高齢者を支援する仕組みづくり
内容：認知症高齢者や親族のいない高齢者が、シルバーパスや家賃減免などの手続きができない、部屋の片づけや衛生環境が維持できないなど、生活に支障がでている事例が多くある。認知症高齢者や親族のいない高齢者を支援する仕組みが必要。	
連携	８０５０世帯を支援する関係機関の連携のあり方
内容：親（８０世代）と子（５０世代）のそれぞれの支援者同士の連携のあり方について、支援者間で考え方に相違があるため、世帯としての支援体制を構築することが難しい。	
地域活動、理解	一人暮らしの高齢者への緊急対応がスムーズにできる仕組みづくり
内容：一人暮らし高齢者に対し、周囲が何らかの異変を察知し安否確認が必要になっても、緊急連絡先などの情報が無い場合にはスムーズな対応が行えないことがある。日頃から、緊急時の連絡先を確保すること等の大切さについての理解や普及啓発を促進させる必要がある。	
理解、制度	金銭管理に問題が生じている高齢者への支援
内容：収支が合わないなど金銭管理に問題が生じていても、生活スタイルを変えることが難しい方への適切な支援が課題となっている。特に、問題解決の必要性を感じていない高齢者へのアプローチが課題。	
理解・質の向上	医療ニーズの高い高齢者の多摩川水害時の避難について
内容：避難行動要支援者に位置づけられない高齢者で医療ニーズの高い方について、当事者および支援者に避難の備えができていない。（事前避難の必要性や、避難所での対応に限界があることなどの理解や普及啓発が必要。）	

地区・地域等による取組み	
地域課題	取組み状況
見守り、地域活動 認知症高齢者を地域で支えるためには、既存の公的サービスでは十分に対応できず、インフォーマルな取組みが必要となる。このインフォーマルな部分を支える、地域で活躍するボランティア等の担い手の創出が課題である。	地域での取組みとして、令和２年度より認知症サポーター養成講座修了者の地域での活用について、所管課と意見交換等を行ってきた。 令和３年度については、「認知症とともに生きる希望条例」の推進プロジェクト実行のために各地区にアクションチームの結成が求められるようになった。これは、地域で活動する担い手（パートナー）の創出のひとつの活動であるため、地域版地域ケア会議において、アクションチームについて所管課とともに地区の情報共有や意見交換を実施した。今後も実施する予定。
理解、制度、地域活動 若年性認知症に対する理解や活動の場が少ない。	地区での取組みとして、あんしんすこやかセンターが地区のケアマネジャー向けに若年性認知症の勉強会を開催した。また、当事者の方には、あんしんすこやかセンターが主催または協力しているイベント等でお手伝いを依頼した。今後も希望があれば継続の予定。
見守り、理解 セキュリティの高いオートロックマンションについては、地域との関りが希薄な居住者が多い。 マンション管理組合や管理人等と日頃から関係性を構築する必要があるが、棟数も多く、新規建設も多く見込まれ、各地区での対応が追い付かない状況が続いている。	地区での取組みとして、高齢者の実態把握をとおして、地区内のセキュリティの高いマンションを把握、管理人の有無等の情報を蓄積している。把握できたマンションについては、管理人を訪ね、あんすこについて周知を行った。また、地区の民生委員の方とも意見交換等を行いながら、マンション居住者とのかかわりを模索した。 今後は地域での取組みについても検討を要する。

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）
・早い時期から成年後見制度につなげるための仕組みづくりが課題となっている。また、あんしん事業から成年後見制度への移行が円滑に進むような取組みや、あんしん事業のお試し利用の仕組みづくりなどが望まれる。一方で、世帯単位で金銭管理を支援する仕組みづくりの検討も望まれる。 ・大規模団地の建替えが予定されており、高齢者の利用可能なごみ収集サービスの拡大が求められる。また、低所得者に対してはゴミの片付け支援として助成制度等の創設も望まれる。 ・高齢者が元気なうちから将来について考え、不測の事態に備えることの大切さへの理解が進まず、円滑な支援に支障が生じていることが課題となっている。

令和４年４月２７日作成

地域版地域ケア会議実施報告

令和３年度　　烏山　地域

地域版地域ケア会議の開催状況

地域ケア連絡会としての開催　　３　回

参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、烏山地域障害者相談支援センター（ぽーとからすやま）、社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、成年後見区民後見人、訪問看護ステーション芦花、特別養護老人ホーム久我山園、松沢病院、タンドル南烏山、居宅介護支援事業所あすなろ、子育て支援コーディネーターぶりっじ、まちづくりセンター、保健福祉課、健康づくり課、生活支援課、介護予防・地域支援課、地域振興課、保健福祉政策課、日本大学文理学部社会福祉学科

地域合同包括ケア会議としての開催　　０　回

参加者（所属）：令和３年１２月１６日(木)に開催を予定していたが、新型コロナウィルス感染症の状況から開催を中止した。

テーマ：

抽出された地域課題　（※前年度から継続する地域課題を含む）

カテゴリー	テーマ
見守り・地域活動	介護を必要とする人が活躍する場づくり（積極的見守りづくり）
内容：特技、趣味、好きなことをして、自分らしい生活をどう継続して行くか、今までのつながりをどう維持し、新しいつながりをどう作っていくか。介護を必要とする高齢者や認知症への理解、どのような場がつながりの場になるのか、どのような人が支える人になるのかを考える必要がある。	
制度	「８０５０問題」（制度の狭間）
内容：心身機能が低下した親と暮らしている生活能力に課題のある６５歳未満の子の支援を行う機関が明確でない等、継続した支援を行うことが難しい。	
制度	制度の移行
内容：６５歳になり障害福祉の制度から介護保険制度へ移行する際に、円滑なサービスの移行が難しい。	
権利擁護	身元保証
内容：今は元気でひとり暮らしに困らない方でも、特に、医療・住まい・就労の手続きにおいて、保証人や代理人がいなくて困る場面がある。	
権利擁護	残されるペットや植物
内容：ペットの世話が心配で必要な入院・入所が出来ない方や飼い主の急な入院・入所で自宅に残されてしまうペットがいる。	
理解	妄想についての理解
内容：妄想による行動がある方について、地域住民の妄想への理解を深めることが難しい。	

地区・地域等による取組み	
地域課題	取組み状況
「８０５０問題」（制度の狭間） 心身機能が低下した親と暮らしている生活能力に課題のある６５歳未満の子の支援が必要。	・令和元年度より「地域障害者相談支援センター（ぽーとからすやま）」が事務局の「ぽーと会議」を実施している。「ぽーと会議」では、多職種の支援関係者が８０５０世帯の見立て（主に５０の子）を行い、家族としての支援の方向性を確認し、役割分担の確認を行っている。（計２回）
制度の移行 ６５歳になり障害者総合支援法から介護保険法へサービスが移行する際に、円滑な移行が必要。	・平成３０年度より保健福祉課が事務局の「移行会議」を実施している。「移行会議」では、６５歳になる６ヶ月前までに高齢･障害の担当者が移行までのスケジュールや役割分担の確認を行っている。
身元保証 今は元気で一人でも困らない人でも、特に、医療・住まい・就労の手続きにおいて、保証人や代理人がいなくて困る場面があり、検討が必要。	・令和元年度に烏山地域における試行として、緊急搬送時の円滑な対応および自助の機運醸成を図ることを目的に、「熱中症予防シート」に、緊急連絡先等の記入欄を追加したものを配布し、令和２年度より世田谷区内全地域での配布に拡大された。 ・令和２年度より烏山地域社会福祉協議会が、烏山地域内の３地区で配布している「緊急時安心ツール」について、様式統一化した。
残されるペットや植物 急な入院･入所等によって残されてしまうペット達について、検討が必要。	・令和２年度より烏山地域社会福祉協議会が、「緊急時安心ツール」の様式統一化と合わせて「ペット用いのちのバトン（緊急時安心ツールのオプション）」の配布を開始した。

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）
＜今後の方向性＞ ・令和４年度は昨年度から引き続き介護を必要とする人が活躍する場づくり「積極的見守りづくり」をテーマに、一人ひとりの強みから地域づくりのアプローチを行う。 ＜残された課題＞ ・８０５０問題に関する取組みが各地域で始まっているが、地域によって課題認識や手法、支援体制も様々で、全区レベルでの課題の確認や取組み手法の検討等が必要である。 ・８０５０問題について、支援者から関係機関への相談や「ぽーと会議」（烏山地域）における取扱い件数等相談につながるケースを増やしていくには、ケアマネ等からの相談が必要であるが、ケアマネが区へ積極的に家族の情報を提供するには、守秘義務の問題がある。 ・「熱中症予防シート」へ緊急連絡先等の記入欄を追加する取り組みは、烏山地域での試行から裏面印刷による全区展開に繋がった。自助を促す取組みとして定着していくよう、民生委員・児童委員との連携や啓発をしながら進めていく必要がある。また、警察や消防等との情報共有も必要である。 ・ペット問題（残されるペット）について、飼い主が高齢で施設入所するなど緊急時のための事前の備え（自助）に関する普及啓発等が必要である。